



2019年6月12日（水）

日本語プレスリリースの問い合わせ先：
コクランジャパン（国立研究開発法人 国立成育医療研究センター内）
電話 080-3609-4230 Fax 03-3417-2694
E メール cochrane.japan@gmail.com

プレス連絡先: Katie Abbotts
External Communications and Media Officer, Cochrane
携帯電話 +44(0) 7810 504380
E メール kabbotts@cochrane.org または pressoffice@cochrane.org

砂糖入り清涼飲料の摂取量を低減させる方法に関するエビデンスを評価した新たなコクランレビュー

砂糖入り清涼飲料の摂取は、世界的な肥満のまん延の背後にある主な原因のひとつであると考えられており、虫歯、糖尿病、心疾患とも関連している。世界保健機関（WHO）をはじめとする公衆衛生団体の多くが、各国政府、食品・飲料業界、教育機関、各種職場、市民団体に対して、健康的な飲み物選びを支援するように呼び掛けてきた。

この新しいコクランレビューは、砂糖入り清涼飲料の摂取量を集団レベルで低減させる方法を検証した研究のエビデンスをまとめたものである。ドイツと英国の研究者チームが、砂糖入り清涼飲料を摂取または購入する物理的環境または社会的環境を変えることを目的としたさまざまな方法や戦略を評価した試験 58 件の結果を検討した。レビューの対象とした試験は、学校、カフェ・喫茶店、レストラン・飲食店、家庭、各種小売店をはじめ、さまざまな環境設定で行われた。各試験では、砂糖入り清涼飲料および健康的な他の飲み物の製品表示や価格など、砂糖入り清涼飲料の摂取を抑えることを目的とした多種多様な方法を評価した。また、健康によい選択を奨励する地域的なキャンペーンなど、広い意味での社会政策的な活動も検討した。対象とした試験は、南北アメリカ大陸、オーストラレーシア（オーストラリア、ニュージーランドおよび近海の諸島）、欧州、東南アジアにある 19 カ国で実施された。

試験で検討された介入方法を大きく分類（製品表示、栄養基準、家庭での介入、食品供給・小売り・飲食サービス全般に向けた介入のほか、食糧援助プログラムや貿易投資政策など特定の地域に向けたアプローチ）したところ、各対策に関するエビデンスの確実性は非常に低い～中等度であった。

レビュー著者らは、現在入手可能な科学的根拠から、砂糖入り清涼飲料の摂取量が減少することが示された多くの対策を明らかにした。それは次のような対策である。

- 信号の色を模した表示や、星や数字を使って飲み物の健康度を示す表示など、わかりやすい製品表示。
- 学校で購入できる砂糖入り清涼飲料の制限。
- レストラン・飲食店、小売店、レジヤ施設で購入できる清涼飲料の値上げ。
- 飲食チェーンの子ども用メニューで、砂糖入り清涼飲料ではなく、健康的な飲み物を標準設定とする。
- スーパーマーケットでの健康的な飲み物の販売促進や買いやすい配置。
- 政府による食糧援助（食糧配給券など）では砂糖入り清涼飲料を購入できないようにする。
- 健康によい飲み物選びの支援に絞った地域的なキャンペーン。
- 容器に入った飲料水やダイエット飲料の宅配など、自宅で低カロリー飲料を入手しやすくする対策。

コクランの著者らは、飲料水やダイエット飲料を自宅で入手しやすくすることによって、体重減少を促すことができるというエビデンスも見出した。このほか、人々の砂糖入り清涼飲料の摂取量に影響を与える可能性のある他の方策もあるが、そのような方策に関する入手可能なエビデンスは確実性が比較的低い。

過去の研究から、健康指導や砂糖入り清涼飲料の課税も、摂取量の低減に役立つことが示されているが、このような方法は現在のレビューでは検討されていない。砂糖入り清涼飲料、未精製の砂糖および砂糖を添加した食品に対する課税は、今後発表されるコクランレビュー2件で検討されるであろう。

レビュー著者であるドイツのミュンヘン工科大学 **Hans Hauner** 栄養医学教授はこの分野の専門家として世界的な第一人者であり、次のように話している。「肥満や糖尿病の割合が世界的に増えており、この傾向は、広範囲にわたる効果的な行動なしには逆転することはありません。特に各国政府や業界は、消費者にとって健康的な選択肢を選びやすくするために、それぞれの責任を果たさなければなりません。このレビューでは、その責任を果たすために役立つ主な方策を取り上げています」。

同じくレビュー著者でドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン校の公衆衛生・保健サービス研究の **Eva Rehfuss** 教授が次のように付け加えている。「このレビューでは、全国民が健康的な飲料を選択できるようにするための包括的な戦略に不可欠な、基礎的要素を強調しています。ただし、学校や職場など特定の環境設定や、社会経済や文化的背景が異なる人々に対して、さらに経済開発レベルが異なる国々などでは、どのような方法が最善なのかを理解するためには、まだまだ研究が必要です。それによって、現在の方法をさらに改良することができると思います。ですから、政策立案者や各種政策を実行する人々が研究者らと協力して、質の高い評価を行えるようにする必要があります」。

レビューの主著者であるドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン校の **Peter von Philipsborn** 研究員は次のように語っている。「砂糖入り清涼飲料は世界的な問題ですし、南アフリカ、メキシコ、ブラジルなど中所得国が特に影響を受けています。このレビューで取り上げた方策は、世界中の政策立案者が検討すべきものだと思います」。

コクランの公衆衛生グループによる本コクランレビューは、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン校ペッテンコーファー公衆衛生学部の医学情報処理・バイオメトリー・疫学研究所、ミュンヘン工科大学およびロンドン大学 UCL に所属する研究者らが実施した。

-以上-

全文 : Von Philipsborn P, Stratil JM, Burns J, Busert LK, Pfadenhauer LM, Polus S, Holzapfel C, Hauner H, Rehfues E. Environmental interventions to reduce the consumption of sugar-sweetened beverages and their effects on health. Cochrane Database of Systematic Reviews 2019, Issue 6. Art. No.: CD012292.
<https://doi.org/10.1002/14651858.CD012292.pub2>